

第 11 回岩手県スポーツ推進審議会議事録

日時：平成 29 年 1 月 25 日（水）13：30～

場所：岩手県庁 12 階 特別会議室

出席者

○スポーツ推進審議会委員

古舘英彦委員 齋藤雅博委員 高橋光彦委員 清川義彦委員 照井大道委員
菊池幸子委員 高橋敦子委員 上濱龍也委員 菅 義行委員 村田奈々委員
鈴木美智代委員 土信田有紀委員

○岩手県

政策地域部政策推進室 畠山特命課長 総務部人事課 米内行政経営担当課長
保健福祉部障がい保健福祉課 駒木障がい福祉担当課長
国体・障がい者スポーツ大会局総務課 石木田主幹兼企画広報担当課長

○岩手県教育委員会

川上教育次長 スポーツ健康課八木総括課長 渡辺施設・学校健康担当課長
谷藤国体選手強化担当課長 神久保主査 川村主査 日野澤主任指導主事
村田主任指導主事 廣澤主任指導主事 佐々木主任指導主事 三浦主任指導主事

（渡辺担当課長）

本日は、委員 13 名中、過半数となる 12 名の出席ですので、「岩手県スポーツ推進審議会条例第 4 条第 2 項」の規定により、本会議が成立していることを報告します。

なお、「審議会等の会議の公開に関する指針」により、本日の会議は全て公開となりますので、予め承知くださいますようお願いいたします。

1 開会

（渡辺担当課長）

只今から、第 11 回岩手県スポーツ推進審議会を開催します。

はじめに、教育長代理として出席しております川上教育次長が挨拶を申し上げます。

2 教育長挨拶

（川上教育次長）

本来であれば教育長が御挨拶申し上げるところですが、他用務と重なり出席がかなわないということで、挨拶を承ってまいりましたのでご紹介いたします。

岩手県スポーツ推進審議会の開会に当たりまして、一言、御挨拶を申し上げます。委員の皆様には、お忙しい中、本審議会に御出席をいただき、心から御礼を申し上げます。

さて、昨年、成功裡に終了した希望郷いわて国体におきましては、天皇杯・皇后杯順位共に第 2 位を獲得し、また、希望郷いわて大会でも、55 種目において金メダルを獲得するなど、いずれの大会においても素晴らしい成績を収めることができました。これは、選手や関係者の皆様の御努力はもちろんのこと、家族、学校、地域の方々など、県民が一丸となりオール岩手で取り組んだ

賜物であり、東日本大震災や昨年の台風 10 号の災害から復旧・復興に取り組む本県にとって、大きな力となりました。関係する皆様に改めて感謝申し上げます。

現在、県では、いわて国体・いわて大会のレガシーの継承について、来年度の事業に反映させるよう取組んでおり、また、児童生徒の体力向上、肥満防止などにつきましても、引き続き重要なテーマとして取組むこととしております。

本日の会議では、いわて国体、いわて大会の結果について、改めてご報告させていただきますとともに、本県のスポーツ推進計画として位置付けております、いわて県民計画第 3 期アクションプランに関する進捗状況につきましてもご報告いたします。委員の皆様には、幅広い見地から御意見や御助言をいただきますよう、よろしくお願いいたします。

結びに、今後とも、それぞれのお立場から、本県の体育・スポーツの振興に向けた取組が一層図られるよう、皆様からの御支援をお願い申し上げ、開会に当たっての御挨拶といたします。

3 委員紹介

(渡辺担当課長)

新任委員を御紹介いたします。本年 1 月 1 日付で就任されました岩手県商工会議所連合会副会長 齋藤雅博委員です。どうぞよろしくお願いいたします。

続きまして、県側の職員ですが、先ほど挨拶申し上げました川上圭一教育次長兼学校教育室長です。なお、その他の職員についての紹介は割愛いたします。

4 会長挨拶

(渡辺担当課長)

続きまして、高橋光彦会長から御挨拶をお願いいたします。

(高橋光彦会長)

スポーツ推進審議会の委員の皆様には、日ごろからそれぞれの分野において様々な形で本県のスポーツ推進にご尽力いただいておりますことに御礼を申し上げます。希望郷いわて国体、希望郷いわて大会も大きな成果を上げて成功裡に終えることができました。委員の皆様には、選手、役員等、様々な立場でご協力いただきましたことに心から敬意を表します。

さて、今年度第 2 回目となる審議会ですが、希望郷いわて国体、いわて大会の成果や、いわて県民計画第 3 期アクションプランについて報告等がございますので、本日も委員の皆様には忌憚のない意見交換をいただければと思います。本日はどうぞよろしくお願い申し上げます。

5 議事録署名人選出

(渡辺担当課長)

ありがとうございました。これより先の議事につきましては、高橋会長に進行をお願いいたします。

(高橋議長)

それでは、次第に従い進行させていただきます。次第 5 の議事録署名人の指名でございますが、菊池幸子委員と土信田有紀委員にお願いしたいと考えておりますがよろしいでしょうか。

(異議なし)

6 議題

(高橋議長)

それでは、次第6の議題に入ります。

(1) 第71回国民体育大会の結果について、事務局から説明をお願いします。

(1) 第71回国民体育大会の結果について

(八木総括課長)

資料により報告。説明後、国体記録DVD視聴。

(高橋議長)

続きまして(2)第16回全国障害者スポーツ大会の結果について事務局からお願いします。

(2) 第16回全国障害者スポーツ大会の結果について

(八木総括課長)

資料により報告。説明後、大会記録DVD視聴。

(高橋議長)

次に(3)いわて県民計画「第3期アクションプラン」に係る進捗状況について、事務局から説明をお願いします。

(3) いわて県民計画「第3期アクションプラン」に係る進捗状況について

(八木総括課長)

～事務局説明～以上、スポーツ健康課分の説明とさせていただきます。

これ以降は、各担当課より説明させていただきます。

～事務局説明～(国体局総務課、政策地域部政策推進室、保健福祉部障がい保健福祉課)

(高橋議長)

ただ今の事務局の説明について、質問等ありませんか。

(菊池委員)

いわて国体、いわて大会に卓球競技で携わりました。2年前から審判講習会等でいろいろ勉強しながら1年前にはリハーサル大会にも携わりました。今日の資料を拝見しますと、どうしても選手・指導者目線のお話になります。視点を変えて大会の裏方や審判についてお話しします。

リハーサル大会の時には審判が足りず来ている方で休み無しで審判をやりました。私どももローカルの審判はできますが、国体など大きな大会の審判はなかなかできません。また、皆さん勤めがありますので協力者も必要になります。今回の国体でも、休み時間がなく昼食時間もあまり取れませんでした。選手を育てることも大事ですが裏方である審判なども含めたスタッフを育てていかないと大会もスムーズに運営できないと思います。審判の方々の多くは、会社を定年なさった方や60歳過ぎた方たちが多く若い方がおりません。今回私は国体の審判に携われて光栄でしたが、今後岩手に全国大会などが来た時のため審判養成などの問題も課題になると思いました。

(八木総括課長)

教育委員会は選手強化を担当しましたので資料のような記載になっておりますが、両大会においては、ボランティアや競技役員の方々のお力がなければ成功はなかったと考えております。特に審判について御苦勞はあったと思いますがこの大きなイベントがあり審判員の数が増えたというのも事実です。そういう方々が今後その競技で活躍していく環境を我々は作っていきたいと思いますし、ボランティアとして活躍した方々もこの国体、大会で終わりではなく、将来的にも県内の大会等に来てサポートしていただけるよう登録の案内等をしているところです。そういった支援の体制を、今後も作ってまいりたいと考えております。

(菅 委員)

裏方という話がありましたが、医・科学サポートの面から岩手国体ではスポーツデンティスト、アスレティックトレーナー、そしてあまり表に出ていませんがスポーツ栄養士も裏方としてバックアップしていました。人数は多くありませんがそういう方を育てていく、こういう機会に頑張ったねと伝えることで実際これから数も増えると思います。あまり表に出ていない人を引き上げる、継続させてあげてを県にお願いします。これまで構築されたことが結果として出ていると思いますので、医・科学面に関しても評価していただきながら、普段見えてこないスポーツ栄養士やアスレティックトレーナー、スポーツデンティストについても御支援いただき、岩手県から全国に発信してほしいと願っています。

(八木総括課長)

医・科学サポートの面では県体育協会医科学委員会の多大なるご協力により素晴らしいサポートをしていただきました。岩手国体に向けては、いわてアスレティックトレーナーという岩手県なりのトレーナーを養成しましたが、それに加え県歯科医師会からスポーツデンティストの部分でサポートしたいというお話をいただき、県体協、医科学担当で講習会等実施しながら認定したところです。医・科学面で貢献したいという地域の声に後押しされ、本県の医・科学サポートは厚い形でなされたと思いますし各方面から評価いただいております。今後はこの国体を契機にさらにステップアップするよう医科学委員会の先生方のご指導をいただきながら我々も頑張っ
てまいります。

(菅 委員)

健やかな体をはぐくむ教育の推進について、体力は全国ベスト10ぐらいのところにおいて素晴らしいと思うのですが肥満の方はワースト10になっています。

そこで、資料にある目標値について、これは全国平均なのでしょうか。それとも県独自のものなのでしょうか。また体力が高いのに肥満が多いということに対していかがでしょうか。

(川村主査)

目標値については県独自の目標値となっております。平成26年度の現状値をもとに正常の範囲内の生徒を増やしていこうとするものです。

(菅 委員)

全国と比べていかがでしょうか。設定によって評価が変わってくるということですか。

(川村主査)

県の方がどちらも全国と比べて低くなっています。全国的に東北・北海道地区が地域的に低いことから、その中でも改善したい、現状値に対し少しでもいい方向にもっていきたいということで設定しております。

(菅 委員)

体力が高いのに肥満がワースト10という関係についてはどうですか。

(八木総括課長)

肥満については数十年来岩手県あるいは東北・北海道地方の悩みとなっています。運動量や食に関係する部分が大いと思うのですが、県では関係の対策会議を実施したり学校で取り組める様々な資料を作成したりするなどの対策をとっています。

なお、体力と肥満との相関につきましては体脂肪など分からない部分もありますが、私どもではロクマル運動というキャンペーンにより1日60分以上家庭、地域、学校で運動する習慣をつけようという事業を展開しています。委員の皆様にはいろいろな機会にこのロクマル運動を広めていただくことにより体を動かす環境づくりについての御支援をお願いいたします。

(菅 委員)

スポーツ栄養士の話もありましたが、スポーツと食事、体力や肥満などいろいろ関連付けながら環境づくりをしていくと何かが変わると思います。例えば体力と肥満、運動器のデータなどを集め統計的に報告されている例は全国にないと思います。ぜひ岩手県から発信し肥満を改善できれば全国に誇れると思います。体力が高く肥満も減ってきた、運動器もいい子が多いという状況ができるちょうどよい機会だと感じているのでご検討願います。

(村田委員)

素朴な質問なのですが、体力・運動能力調査とはそもそもどういう調査なのでしょう。また、肥満度というのはBMIなどの数値とどう関わっているのでしょうか。

(村田主任指導主事)

体力・運動能力調査の内容は文科省・スポーツ庁の新体力テスト検査項目である握力、上体起こし、反復横とび、50メートル走、20メートルシャトルラン等々の8項目です。これを各10点満点で点数換算し80点満点のうち獲得した点数が学年ごとのABCDEの範囲になっています。

(川村主査)

肥満度につきましては各学年の標準体重から割り出した数値になっています。

(高橋議長)

ここで(4)その他についての資料が配付されていますので事務局の説明をお願いします。

(米内担当課長)

～事務局説明～

(渡辺担当課長)

～事務局説明～

(高橋議長)

マスコミ等でも概要が公表されており、本審議会も今後は新しい組織において対応となるということだと思います。ただ今説明ありましたことにつきまして質問、ご意見等ありませんか。

(菅 委員)

第2章戦略3でスポーツ医・科学機能の拠点設置検討とありますが、凍結と伺っていた医・科学センター設置の方向性について今後具体的に進んでいくのでしょうか。

(渡辺担当課長)

今国体において岩手の成績が良かったのは、まさに医・科学の視点によるサポートの効果であると感じています。そのことも踏まえ震災により凍結となりましたスポーツ医・科学の拠点整備につきましても、今後新部におきまして県として検討していくということで記載しています。

(鈴木委員)

文化スポーツ部の体制について教育委員会と文化スポーツ部の所管と分かれていますが、改めて新体制を作ったねらい、意味合いについて教えてください。全て文化スポーツ部ではなく教育委員会と棲み分けをしたのはなぜでしょうか。

(米内担当課長)

従来は教育委員会が学校体育、競技スポーツ、トップアスリート育成等を担当していましたが、全国の流れとして平成20年に地方教育行政の組織の運営に関する法律の改正があり、文化スポーツに関する事務については地域の実情や住民のニーズに応じた地域づくりという観点から、他の地域振興等の関連行政と併せて地方自治体の長において一元的に所掌することができるようになりました。また、平成25年の中央教育審議会でも今後の地方教育行政の在り方について、文化財保護を除く文化に関する事務、学校体育を除くスポーツに関する事務は原則として首長の事務とし、地方の判断で教育行政部局が担当できるように検討することとなり、県や市町村で従来教育委員会が所掌していた部分を首長部局に移管しようとする検討が始まりました。

現状では本県のように文化・スポーツ行政を知事部局の同一部局に一元化を図っているのは16都道府県ございます。恐らくこの流れは今後地域振興の観点から増えると考えられます。本県は、まず国体の成功に注力し、その後にとということで今回の組織改編になりました。

(鈴木委員)

私は総合型地域スポーツクラブのマネージャーをしていますが、恐らくこの先総合型地域スポーツクラブがこのような振興計画に携わる一団体になると考えています。その際に相談させていただく先はどこなのか。学校関係であれば教育委員会だと思いますし、それ以外は文化スポーツ部になるということでも伺いました。今後詳しいプランが出るとは思います。スポーツ基本法や健康日本21でもスポーツや運動、健康については継続、継続と口を酸っぱくして謳っています。

私ども地域スポーツクラブはトップアスリートというより底辺の拡大、その人が一生笑顔で過ごせる健康を手にするをねらいとしています。資料にはライフステージごとの姿の記載もありとても素晴らしいと思い拝見しました。

また、継続、連携ということも文字として多く出ていました。学校だけでもない、家庭だけでもない、地域だけでもない、皆が一緒にというところが今後一番大事だと思います。総合型地域スポーツクラブは県内に多くあり連携できる力を持つクラブも多くありますので、ぜひ行政の方と一緒に会する場を設けていただけたらと思います。相談に行きたくても組織で固まってしまいサポートが輪にならないところがまだ多く見受けられます。保健や学校、肥満の話もありましたが、小学生などはお母さんお父さんが運動しなければなかなか本人も運動しません。今の40・50代が一番体力をつけなくてはいけないのにつけていないという事実も身近にあります。改めて連携と継続という部分をぜひこのような計画に盛り込んでいただきたいと思います。

(高橋議長)

長時間にわたりありがとうございました。以上で議題について終了とします。

これで議長の任を終了させていただきます。ご協力ありがとうございました。

(渡辺担当課長)

高橋会長ありがとうございました。

7 その他

(渡辺担当課長)

続いて、7のその他ですが、委員の皆様から何かございますか。

(なし)

8 閉会

(渡辺担当課長)

以上をもちまして本日の審議会を終了させていただきます。ありがとうございました。